

神戸大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

(大都市圏あるいは大学のモデルプログラム)

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である神戸大学医学部附属病院は、専門研修連携施設群と連携したうえで専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

さらに麻酔科専門医の資格取得のみならず、本研修プログラムの参加者には以下の5つを目標とし、世界に通ずる麻酔医として活躍できるよう教育、研修を提供する。

- ・安全な周術期をあらゆる患者さんに提供すること
- ・周術期管理の中でリーダーシップを発揮できるようになること
- ・日常臨床の中で、自ら判断し根拠をもって問題解決できるようになること
- ・つねにリサーチマインドを有した医師になること
- ・自らの手で研究し、**Clinical Question** を解決する能力を持つこと

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の4年間を前半・後半のそれぞれ2年に分け、どちらかの2年間で専門研修基幹施設である神戸大学医学部附属病院と、特殊症例の多い連携施設（神戸労災病院、西神戸医療センター、北播磨医療センター、神鋼記念病院、加古川中央市民病院、兵庫県立こども病院など）で研修を行い、残りの2年間は希望により、神戸大学医学部附属病院もしくはその他の連携施設にて研修を行う。
- 4年間のうち最短で1年間は責任基幹施設である神戸大学医学部附属病院で研修を行うこととする。また連携施設Bにおける研修は2年を超えないものとする。
- プログラムに所属する全ての専攻医が、研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設、および連携施設において、専門研修に必要とされる特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。
- 専門研修基幹施設（神戸大学医学部附属病院）での研修には、集中治療およびペインクリニック領域での研修も含む。

研修実施計画例

	コース A	コース B	コース C
専攻医 1年目	大学病院	専門研修連携施設 (特殊症例の多い)	専門研修連携施設 (大学病院での研修も可)
専攻医 2年目	専門研修連携施設 (特殊症例の多い)	大学病院	
専攻医 3年目	専門研修連携施設 (大学病院での研修も可)		大学病院 + 専門研修連携施設 (特殊症例の多い)
専攻医 4年目			

週間予定表

神戸大学医学部附属病院麻酔科ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

神戸大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：溝渕知司

専門研修指導医：

溝渕知司（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

出田眞一郎（麻酔，集中治療）

江木盛時（麻酔，集中治療）

佐藤仁昭（麻酔，ペインクリニック）

小幡典彦（麻酔）

長江正晴（麻酔）

大井まゆ（麻酔）

岡田雅子（麻酔）

牛尾将洋（麻酔）

久保田健太（麻酔）

野村有紀（麻酔）

法華真衣（麻酔）

巻野将平（麻酔）

田口真也（麻酔）

中川明美（麻酔）

武部佐和子（麻酔）

専門医：

古島夏奈（麻酔）

本山泰士（麻酔，ペインクリニック）

東南杏香（麻酔）

上野喬平（麻酔）

西村太一（麻酔）

安本高規（麻酔）

荒川真有子（麻酔）

藤本大地（麻酔）

岡田卓也（麻酔）

桑原緑（麻酔）

辰巳仁美（麻酔）

麻酔科認定病院番号：29

特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提供している。多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる。また、集中治療やペインクリニック分野においても十分な研修を行うことが可能である。

② 専門研修連携施設A

神戸市立西神戸医療センター

研修実施責任者：堀川 由夫

専門研修指導医：

伊地智 和子

堀川 由夫

飯島 克博

田中 修

専門医：

藤澤 恭子

麻酔科認定病院番号：738

特徴：神戸市民病院機構に属し、神戸市西地域の地域中核病院として心臓大血管手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富に研修できる。また、集中治療部も麻酔科が主体となって管理しているため重症患者管理を経験することができる。。

神鋼記念病院

研修実施責任者：上川 恵子

専門研修指導医：

上川 恵子

浅石 真実

宮崎 平祐

西山 由紀子

赤嶺 美樹

専門医：

田宮 みゆき

福本 望美

井口 みお

麻酔科認定病院番号：602

特徴：神戸市中心部の地域中核病院として専門研修指導医・専門医数も充実しており、一般手術麻酔をはじめ、特に胸部手術・脳神経外科手術の手術麻酔管理を多く研修することが可能である。

兵庫県立こども病院

研修実施責任者：香川 哲郎

専門研修指導医：

香川哲郎（小児麻酔）

高辻小枝子（小児麻酔）

大西広泰（小児麻酔）

鹿原史寿子（小児麻酔）

池島典之（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号 93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。

小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

兵庫県立がんセンター

研修実施責任者：加藤 洋海

専門研修指導医：

加藤 洋海（麻酔、集中治療）

木村 好江（麻酔・緩和）

池垣 淳一（緩和）

波戸 章郎（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号 0449

特徴：がん拠点病院。集中治療管理、ペインクリニック、緩和医療も経験可能。ICU管理は麻酔科が中心となって実施されており、周術期を一貫した患者管理の経験可能。開胸手術は国内でも有数の症例数があり、集中的な経験によって高度な管理技術がえられる。

兵庫県立加古川医療センター

研修実施責任者：千草 壽々子

専門研修指導医：

千草 壽々子

高橋 亨子

麻酔科認定病院番号：204

特徴：東播磨地域の地域中核病院で災害拠点病院でもある。救急救命センターが併設されており緊急開頭術、多発外傷、脊髄損傷、熱傷などの救急手術の麻酔管理も多数

経験することができる。また、本年度より脊椎外科センターが稼働、脊椎手術の麻酔症例も多く経験できる。

兵庫県立西宮病院

研修実施責任者：森 美也子

専門研修指導医：

森 美也子

松田 雅子（麻酔）

福家 陽奈（麻酔）

築山 裕子（麻酔）

専門医：

徳川 茂樹

平野 龍平

鳥井 直子

武山 まゆ子

萩原 由梨子

麻酔科認定病院番号 660

特徴：救命救急センターの指定を受けており、外傷、脳神経外科、産婦人科、外科等の緊急手術も多く多様な症例経験が可能。

地域周産期母子医療センターの指定を受けており、帝王切開等の緊急も含めた多彩な産婦人科の周術期管理が経験可能。

脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・神経ブロックの経験多数可能。

腎移植手術の経験可能。

独立行政法人国立病院機構神戸医療センター

研修実施責任者：石川 麻子

専門研修指導医：

石川 麻子

石島 麻美子

山川 直子

高岡 悠子

麻酔科認定病院番号：307

特徴：神戸市西地域の地域中核病院のほか、側弯症に対する脊椎外科手術は全国でも有数の症例数であり、症候性疾患の麻酔、気管支ファイバーを使用した挿管を経験できる。腹腔鏡、四肢関節の手術での神経ブロック症例も豊富である。

甲南医療センター

研修実施責任者：末原 知美

専門研修指導医：

末原 知美

眞田 かなえ

麻酔科認定病院番号 749

神戸市東部および阪神間に位置する地域中核病院である。消化器外科・整形外科・耳鼻科等の一般的な症例の麻酔管理をしている。臍頭十二指腸切除術・肝切除術・食道癌手術等の長時間・高侵襲手術もしばしば行われており、より緻密で厳重な管理を求められている。また、経口内視鏡的筋層切開術(POEM)の麻酔経験を積める数少ない施設の一つである。高齢者症例が比較的多いが、患者年齢層の幅が広く6歳未満の小児症例手術も行われている。

2019年10月に六甲アイランド甲南病院と統合する。それに伴って、新病院I期オープン後は診療科が増え、産婦人科・脳神経外科等の症例も経験できる。手術室は現在の3室から7室に増設、更に集中治療室が8床開設される。バランスのとれた質の高い研修を積めるよう指導に努める。

社会医療法人愛仁会高槻病院

研修実施責任者：中島正順

専門研修指導医：

中島正順（麻酔）

内藤嘉之（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）

土居ゆみ（小児麻酔，小児集中治療）

棚田和子（麻酔）

西田隆也（麻酔）

専門医：

田原慎太郎（麻酔，集中治療，救急医療）

麻酔科認定病院番号：829

特徴：大阪北地域の基幹病院として小児から成人までの高度・先進医療を提供している。心臓血管外科、小児、産科手術麻酔のオールラウンドな研修が可能である。

社会医療法人愛仁会明石医療センター

研修実施責任者：多田羅 康章

専門研修指導医：

多田羅 康章（麻酔・集中治療）

河合 建（麻醉全般）
三宅 隆一郎（麻醉全般・心臓麻酔）
藤島 佳世子（麻醉全般）
服部 洋一郎（麻醉全般・心臓麻酔）
松尾 佳代子（麻醉全般）

麻酔科認定病院番号：1166

特徴：東播磨地域の地域中核病院として脳神経外科手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。心臓大血管手術症例が非常に豊富で、TAVIも実施している。帝王切開手術や、神経ブロック症例も豊富に研修できる。また、集中治療科や救急科も新設され重症患者管理を経験することができる。

社会医療法人愛仁会千船病院

研修実施責任者：上北郁男

専門研修指導医：

上北郁男
魚川礼子
星野和夫
大山泰幸

麻酔科認定病院番号：770

特徴：地域周産期母子医療センター、MFICU（6床）、NICU（15床）、ICU（4床）等を備え、24時間母体搬送の対応をしています。2017年7月に阪神電車なんば線「福駅」前に移転しました。手術室は4室から6室に増室、周産期母子医療センターにおいても帝王切開対応の手術室を完備しています。一般麻酔に加え、豊富なハイリスク妊婦の分娩や無痛分娩等の産科麻酔を積極的に行っています。減量・糖尿病外科が新設され高度肥満症の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術が増加している。

神戸市立医療センター中央市民病院

研修実施責任者：美馬 裕之

専門研修指導医：

美馬 裕之（麻酔、集中治療）
山崎 和夫（麻酔、集中治療）
宮脇 郁子（麻酔）
東別府 直紀（麻酔、集中治療）
下菌 崇宏（麻酔、集中治療）
山下 博（麻酔）

柚木 一馬（麻酔、集中治療）

野住 雄策（麻酔、集中治療）

専門医：

木村 良平（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号：217

特徴：神戸市民病院機構の基幹病院として高度・先進医療に取り組むとともに救急救命センターとして24時間体制で1から3次まで広範にわたる救急患者に対応している。

そのため心大血管手術、臓器移植手術、緊急手術など様々な状況で多種多彩な麻酔管理を経験できる。また、集中治療部を麻酔科が主体となって管理しているため大手術後や敗血症性ショック等の重症患者管理を研修することができる。

神戸赤十字病院

研修実施責任者：溝上 良一

専門研修指導医：

溝上 良一（麻酔、集中治療）

杉山 淳一（麻酔）

熊田 雄太（麻酔）

専門医：

菊地 佳枝（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1059

特徴：成人を中心として、消化器外科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、婦人科、脳神経外科など、幅広い症例を経験することができる。救急に力を入れている病院であり、また、兵庫県立災害医療センターが併設されていることもあり、緊急手術が多いのも特徴である。予定手術患者に対しては術前外来を行い、重症症例に関しては術後集中治療室での管理を行うことで、術前から術後まで一貫した周術期管理を学ぶことができる。

神戸労災病院

研修実施責任者：入江 潤

専門研修指導医：

入江 潤

伊福 弥生

専門医：

貴志 暢之

河野 泰大

木田 健太郎

麻酔科認定病院番号：143

特徴：神戸市中心部の病院で、心臓大血管手術、側弯症などに対する整形外科脊椎手術が特に多く経験できる。ペインクリニックの研修も可能である。

姫路聖マリア病院

研修実施責任者：山本 公三

専門研修指導医：

山本 公三（麻酔、集中治療）

若林 隆信（麻酔）

専門医：

狩野 和香奈（麻酔）

高松 渥子（麻酔）

大倉 靖子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1063

特徴：整形外科、産婦人科、小児外科の麻酔が多い。

ICUも麻酔科で管理しており、集中治療の研修も可能です。

社会医療法人ツカザキ病院

研修実施責任者：垣内 好信

専門研修指導医：

垣内 好信

西村 光生

専門医：

木村 幸平

麻酔科認定病院番号：1524

特徴：中播磨・西播磨の地域中核病院として、心臓血管手術、脳神経外科手術、透視下での神経ブロック症例等を多く研修することができる。救急・集中治療に関する豊富な経験が可能である。

川崎医科大学附属病院

研修実施責任者：中塚 秀輝

専門研修指導医：

中塚 秀輝（麻酔、ペインクリニック）

戸田 雄一郎（麻酔、集中治療）

佐藤 健治（麻酔、ペインクリニック）

小野 和身（麻酔）

前島 亨一郎（麻酔、集中治療）
西江 宏行（麻酔、ペインクリニック）
谷野 雅昭（麻酔、集中治療）
櫻井 由佳（麻酔、集中治療）
川上 朋子（麻酔）
葉山 智子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：77

特徴：心臓血管手術、脳神経外科手術、呼吸器外科手術、腹腔鏡下手術、婦人科手術など、幅広い症例を研修することができる。救急に力を入れている病院であり、緊急症例の麻酔管理なども経験できる。また、ICUも麻酔科が管理しており、集中治療の研修も充分行える。ペインクリニック外来、緩和医療、無痛分娩などの研修も可能である。

川崎医科大学総合医療センター

研修実施責任者：片山 浩

専門研修指導医：

片山 浩（麻酔・集中治療）
大橋 一郎（麻酔・集中治療）
落合 陽子（麻酔）
日根野谷 一（麻酔・集中治療）
専門医：吉田悠紀子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：211

特徴：地域の基幹病院として指導医数も充実しており、様々な手術麻酔管理、特に心臓血管外科麻酔と神経ブロックを併用する整形外科麻酔を研修することができる。残念ながら産科麻酔は現状では存在しない。集中治療部も麻酔科が主体となって管理しているため重症患者管理を経験することができる。

関西労災病院

研修実施責任者：興津賢太

専門研修指導医：

上山 博史（麻酔）
興津 賢太（麻酔）
田村 岳士（麻酔）
福原 彩（集中治療部）
清中 さわみ（麻酔）
阪下 直美（麻酔）

中野 一菜（麻醉）

麻醉科認定病院番号：327

特徴：県内で中心的な役割を果たす手術施設。

集中治療の研修も可能。

誠仁会大久保病院

研修実施責任者：裏辻 悠子

専門研修指導医：

裏辻 悠子

井谷 基

麻醉科認定病院番号：1754

特徴：東播磨地域で、整形外科、脳神経外科、外科、婦人科の症例を経験できますが、特に整形外科は脊椎外科、人工関節、肩手術が豊富で、ペインクリニックも併設しているため、各種神経ブロックも多数経験することが可能です。

西脇市立西脇病院

研修実施責任者：植木 正明

専門研修指導医：

植木 正明

坂本 昇太郎

専門医：

鷲尾 輝明

麻醉科認定病院番号：1390

特徴：北播磨地域の地域中核病院として、特に脳神経外科手術の麻醉管理を豊富に研修することができる。

宮崎大学医学部附属病院

研修実施責任者：恒吉 勇男

専門研修指導医：

恒吉 勇男（麻醉、集中治療、ペインクリニック）

指宿 昌一郎（麻醉、手術部）

谷口 正彦（集中治療）

白阪 哲朗（麻醉）

河野 太郎（麻醉）

山賀 昌治（ペインクリニック）

矢野 武志（集中治療）

新福 玄二 (麻酔)
丸田 豊明 (麻酔)
山下 幸貴 (麻酔)
與那覇 哲 (集中治療)

専門医：

川崎祐子 (ペインクリニック、麻酔)
長濱真澄 (集中治療)
田村 真由子 (麻酔)
日高康太郎 (麻酔)
石山健次郎 (麻酔)
宮里岳志 (麻酔)
太田尾剛 (麻酔)
長嶺佳弘 (集中治療)
深尾麻由 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：174

特徴：宮崎大学では、麻酔の初歩から食道がん手術や心臓手術などの高度な麻酔に加え、ICUやペインクリニックなどの専門技術を習得する。最先端手術のTAVI手術やロボット手術（ダビンチ手術）の麻酔も経験できる。

高知医療センター

研修実施責任者 杉本清治

専門研修指導医：

杉本清治 (麻酔)
難波健利 (集中治療)
滝本恵里 (麻酔)
鬼頭英介 (麻酔、集中治療)
濱田暁 (麻酔、集中治療)

専門医：

小川達彦 (麻酔、集中治療)
濱田奈保 (麻酔、集中治療)
入江直 (麻酔)
廣田遥子 (麻酔)

麻酔科認定病院番号 66

特徴：集中治療のローテーション可能。ペインクリニックのローテーションも可能。
TAVIを含め、ほとんどすべての外科系手術症例を経験できる。

国立研究開発法人国立循環器病研究センター

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：

- 大西佳彦（心臓麻酔）
- 吉谷健司（心臓麻酔，脳外科麻酔）
- 金沢裕子（心臓麻酔）
- 南 公人（集中治療）
- 前田琢磨（輸血管理）

専門医：

- 濱口英佑（心臓麻酔）
- 前川真基（心臓麻酔）
- 月永晶人（心臓麻酔）
- 下川 亮（心臓麻酔）
- 矢作武蔵（心臓麻酔）
- 濱井康貴（心臓麻酔）
- 宮崎絵里佳（心臓麻酔）
- 佐藤仁信（心臓麻酔）
- 長谷川知子（心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号 168

特徴：心臓大血管手術の症例数が多いことが特徴です。2018年は1208症例の心臓大血管手術症例がありました。弁手術はダビンチロボット手術による僧帽弁形成術、小切開大動脈弁置換術、人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術など低侵襲手術が増加しています。反対に重症心不全に対する左室補助装置装着術や心臓移植術、大動脈解離に対する緊急弓部グラフト置換術などリスクの高い症例も多くあります。カテーテル治療としてハイブリッド手術室でカテーテル大動脈弁置換術や僧帽弁形成術、大動脈ステント留置術が多く施行されています。脳血管外科手術症例、産科症例も多く施行されています。小児心臓手術や新生児姑息術も多く施行されています。

宇治徳洲会病院

研修実施責任者：鬼頭 秀樹

専門研修指導医：

- 鬼頭 秀樹（麻酔）
- 村川 和重（麻酔・ペインクリニック）
- 竹田 智浩（麻酔）
- 加藤 秀哉（麻酔）
- 中野 由衣子（麻酔）

麻酔科認定病院番号 1258

特徴：京都府南部で唯一の救命救急センター。緊急手術を多く受入れており、特に京都府南部では一番多く心臓大血管手術管理の研修が出来る施設。また、硬膜外ブロックをはじめとした神経ブロック症例も豊富に研修できる。手術の麻酔管理以外にペインクリニックの研修も可能。

医療法人徳洲会 大隅鹿屋病院

研修実施責任者：井上敏

専門研修指導医：

井上敏

麻酔科認定病院番号：1306

特徴：呼吸と循環管理のプロとなるべく徹底的に、心臓外科手術及び、外科の重症症例にてトレーニングを積んで頂きます。幸い、私たちの病院では、外科は肺～食道～肝胆膵～下部消化管等のほぼ全てのジャンルで手術をしております。心臓外科でも、緊急の大血管症例も豊富で成人開心術症例のトレーニングには最適です。また、土地柄、患者さんが高齢であり、麻酔科的合併症も潜在的に認められ、それ故、麻酔科の実力は必然的に身に付いていくと考えています。

天陽会中央病院

研修実施責任者：長野 真行

専門研修指導医：

長野 真行

麻酔科認定病院番号 1573

特徴：循環器内科・心臓血管外科の診療体制が充実しており、心臓血管外科手術に加えて循環器合併症のある患者さんの外科・整形外科手術の麻酔管理を研修することが可能です。

③ 専門研修連携施設B

北播磨総合医療センター

研修実施責任者：武士 昌裕

専門研修指導医：武士 昌裕

麻酔科認定病院番号：1642

特徴：北播磨の地域中核病院として、心臓大血管手術をはじめオールラウンドの手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富である。集中治療・ペインクリニックの研修も可能である。

加古川中央市民病院

研修実施責任者：久次米 依子

専門研修指導医：

久次米 依子

木ノ下 直央子

木村 靖子

中西 万貴

専門医：

篠崎 裕美

豊嶋 恭子

柘植 江里香

横田 有理

麻酔科認定病院番号：1825

特徴：兵庫県東播地域の地域中核病院として、特に小児手術、帝王切開をはじめとした産科手術、小児を含む心臓大血管外科手術の手術麻酔管理を研修することができる。神経ブロック症例も豊富に研修できる。

兵庫県立淡路医療センター

研修実施責任者：渡海 裕文

専門研修指導医：

渡海 裕文（麻酔、集中治療）

専門医：

山崎 彩

久保田 恵理

繁田 麻里

金城 永明、

藤田 佑紀

麻酔科認定病院番号 1529

特徴：地域救命救急センターの指定を受け、産科、小児科をはじめ、脳外科、心臓外科の救急や手術等、多様な周術期管理の経験が可能。

三田市民病院

研修実施責任者：笠置 益弘

専門研修指導医：

笠置 益弘

専門医：

諸岡 あかり

邊見 弥生

麻酔科認定病院番号：752

特徴：バランスのとれた総合病院であり、麻酔の基本を学ぶ症例が充実している。ロボット支援泌尿器科手術や、臍頭十二指腸切除術等高侵襲手術も多い。神経ブロックを多くの症例で行っており、神経ブロックの症例を多く研修することが可能である。また、ペインクリニック外来を持ち、手術麻酔とともに研修可能である。

国立がん研究センター中央病院

研修実施責任者：佐藤 哲文

専門研修指導医：

佐藤 哲文（麻酔，集中治療）

松三 絢弥（麻酔，集中治療）

川口 洋佑（麻酔，集中治療）

大額 明子（麻酔）

塩路 直弘（麻酔，集中治療）

専門医：

浅越 佑太郎（麻酔）

川久保 紹子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：43

特徴：東京都中心部に位置するがん治療・がん研究の拠点病院で、悪性腫瘍手術全般、特に胸部腹部外科手術の麻酔管理を研修することができる。集中治療部の研修も可能である。

市立加西病院

研修実施責任者：魚住 亮

専門研修指導医：

魚住 亮

森川 真由美

林 万亀男

麻酔科認定病院番号：509

特徴：兵庫県北西播磨地域の地域中核病院で、加西市で唯一の急性期総合病院である。主に一般手術の麻酔研修が可能である。

兵庫県立はりま姫路総合医療センター

研修実施責任者：長江正晴

専門研修指導医：

長江正晴（麻酔，集中治療）
本山泰士（麻酔，ペインクリニック）
山根悠（麻酔，心臓麻酔，集中治療）

専門医：

安本高規（麻酔）
岡田卓也（麻酔，心臓麻酔）
畑澤佐知（麻酔）
盛房禎子（麻酔）
岡本修佑（麻酔）
井関将彦（麻酔）

麻酔科認定病院番号：2004

特徴：地域の中核病院として、common diseasesから高度専門・先進医療まで幅広く対応している。これにより麻酔管理として多種多彩な症例を経験することができる。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2020年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、神戸大学麻酔科専門研修プログラム website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

神戸大学医学部附属病院 麻酔科 溝渕知司 教授

〒650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町 7-5-2

TEL 078-382-6172

FAX 078-382-6189

E-mail anesth@med.kobe-u.ac.jp

Website <http://www.med.kobe-u.ac.jp/anes/index.html>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適

性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての兵庫県立淡路医療センター、市立加西病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。